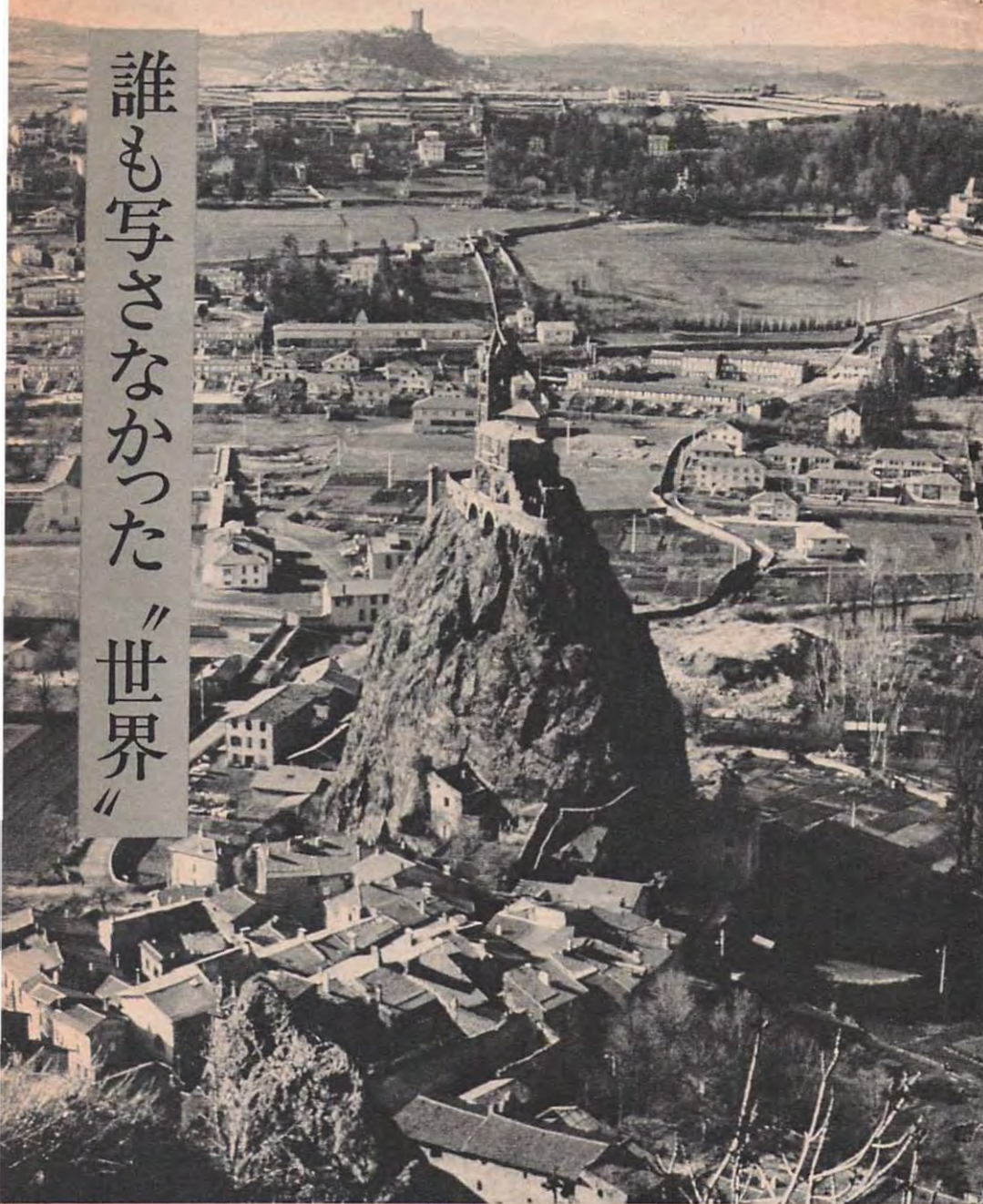


誰も
写さ
なかつた
“世界”



●フランス・木村尚三郎氏

地方都市ル・ビュイ市の山の上の教会。11世紀に建てられたものだが、異教徒の攻撃から教会を守るため地上80メートルの山の上にある

右上・元医者、占星術で日本でも有名なノストラダムスの墓。サロン市にある
 右下・ビジネス超特急ミストラル号内の土産物店。レストラン、美容室もある
 左ページ・パリ郊外のラ・テファンス市のビジネスセンター。現在建設中の超
 高層化都市で、地面はすべて石の人工地盤だという



フランスへ何度も旅行している木村尚三
 郎氏（東大助教授）は地方都市めぐりが大
 好きの由。中世の教会を訪ねては心を安め
 ている。と同時に超特急ミストラル号に乗



つて胸を弾ませたり、超高層化都市の探訪もして、フランスの新しい顔にも好奇心がいった。

ソ連、モンゴルから北京へ——これが今年の中嶋雄雄氏（東外大助教授）の旅のはじまりだった。モンゴルでは中国との国境線に立って、思いきってカメラのシャッターを押した。北京は一九六六年以来八年ぶりの訪問。ちょうど全国人民代表大会が開かれていたが、八年前の「文革」の中国とは別世界のようにだったという。

ドストエフスキーは？のあこひげが似合う勝田吉太郎氏（京大教授）の旅は、今度もソ連で、ドストエフスキー、チャイコフスキーのお墓詣でをしてきた。

講義、講演の忙しい合間をぬって海外の国際会議に出席する磯村英一氏（都立大名誉教授）は、ブラジルの新首都ブラジリアの表と裏の表情をカメラに収めた。

前オーストラリア国立大助教授・向井啓雄氏の旅は、首都キャンベラから飛行機で往復二日もかかる西オーストラリアはブルーム。かつて日本人町もあった街だそうだが、旅行者としては珍しいようだ。

中華民国台湾の南の果てに飛んだ小谷秀二郎氏（京都産業大教授）、西郷従道ゆかりの遺跡めぐりと取材の旅を終えて帰国するや、休む間もなく再び旅行へ。

以上、誰も写さなかった世界——「正論誌上・傑作六人展」をおとどけます。



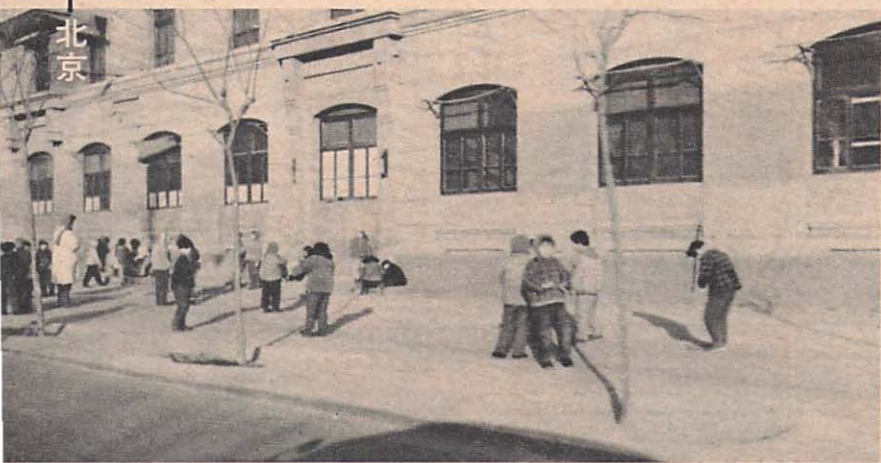
● モンゴル—北京・中嶋嶺雄氏

上・モンゴル—中国国境。警備小舎と国境警備隊員（モンゴルの）姿が見える
 中・カンランテ・チンリン廟（ワマ教の寺院）。社会主義化の今日でも残っている
 下・昭和二十年〜二十二年の間に、いわゆる外蒙の地で、約三千人の日本人抑留
 者が亡くなった。その霊はウランバートル郊外の日本人墓地に眠る



モンゴル

北京



上・文化大革命の激動から八年。北京・前門街の大通り裏の繁華街を楽しむ顔。日本では浅草にあたる。影院とある看板は映画館
 中・北京の小学校では子どもたちがのびのびと遊んでいる
 下・文革のさなか、毛首席の写真を先頭にハタシで行進する文革紅小兵、小学生の紅衛兵（一九六六年、中嶋氏写す）





●ソ連・勝田吉太郎氏

レニングラードのネフスキー修道院にある左からドストエフスキー、チャイコフスキー、リムスキー・コルサコフの墓



●ブラジル・磯村英一氏

右・ブラジルの新首都ブラジリアに建つ国会議事堂。向かって右上院、左が下院。左・ブラジリア郊外にある“自由の町”の一隅で遊ぶ子どもたち